安倍奥前衛・竜爪山

長尾川／三の沢

メンバー:三井(単独)
遡行日:11年3月27日

静岡の市街から安倍川に沿って北上すると、安倍川左岸山地の南端に位置する山が竜爪山(リュウソウザン)で、手軽に登れることから季節を問わずハイカーの訪れは多い。
長尾川はその竜爪山の東面にあり、沢登りの対象としては初級の、これといって興味深い沢ではない。が、最近この沢の支流に名前のついた大きな滝が幾つか存在する事を知り、一度この目で見てみようか、と思った次第。

早朝、平山の登山口に着くと既に6,7台の車が停まっていてハイカーが慌しく登っていく。
僕が沢の装備で歩きだそうとしていると一人のハイカーから声がかかり、滝の事を話すとそのハイカーから滝のある沢は「三の沢」というらしい事がわかる。
登山道から直ぐに沢に入るが3mほどの小滝があり(三丁目の滝)、その先が二俣になっていて本流側に5mの滝(五丁目の滝)。右の枝沢がその「三の沢」らしい。
何の変哲もない沢を行くと程なく大きな滝の出現となる。狭い凹角をくの字状に流下している斜瀑で、「竜走の滝」と呼ばれている。落差は 15m、といったところか。
水量の多い時期なら中々見栄えがするだろう。
水流の中を登る事も可能な感じだが濡れる気にはならず、側壁を登って上にでる。
小沢を暫く行くと木の間越しに瀑水が見える。これが 3 段 30m、「肝冷やしの滝」だろう。
下段の5mを登って中段の20mを観察する。上段は見えないが全体に立ってはいるがホールドはありそうだし、中間に潅木があり、少し手こずっても登るに問題はなかろう。
とは言え、再度わざわざ登りに来る事はないな、と思いつつ右から巻く。
暫くそのまま進むもその先は明らかに何もなさそうで、「もういいか。」という事で少し藪を漕いて登山道に上がり、ほんの一登りで穂積神社にでる。
ここから下ろうと思ったがまだ全然時間も早いし、折角なので足慣らしを兼ねて山頂に行ってみよう、と思い直す。
登山道は結構な急登だが東海自然歩道になっているせいか延々とコンクリートの枕木で階段状になっていて登り難いったらない。
竜爪山は薬師岳と文殊岳の双耳峰の総称で、文殊岳からは静岡の市街や清水港などが望め、背後には南アの聖岳なども見えて展望を愉しめる。
山頂には案の定というか10人ほどのハイカーがいて賑わっていた。

大地震後の混乱は続いている。今年の沢の幕開けとなったものの山行にもその影響は受けざるを得ないだろう。
しかし、こんな時でも沢を愉しむゆとりは持っていたいと思う。